

政策事業の 適正な実施

原 紀夫議員

本年2月の町長選挙を経て、公約関連事業を提案しているが、提案は緊急度の高いものを優先すべきである。交流人口拡大支援事業(スポーツツーリズム)は不透明な部分が多いので、次について伺う。

①本年度より、3か年の協会運営費の大半は町の助成金を見込んでいたが、本格運営では宿泊施設や競技施設は欠くことのできない施設である。これらの施設はどこに、誰が建設し、費用負担はどのようにするか。

②各種大会を誘致することのことが、宿泊者をどのようにして年間通して確保するのか。先進的に取り組んでいる町村も頭を悩ましていて、競合して運営は厳しくならないのか。

③スポーツツーリズム協会の理事長(総合計画審議)の理事長(総合計画審議)が選出される

議会会長が就任したが、相当地な自信に裏付けされていると思慮する。どのような説明を受けているのか。

④宿泊施設について、今後、農業振興公社跡や農業研修会館等を活用するよう計画はあるのか。

高薄町長

①スポーツツーリズム協会では、事業開始に向けて現在もさまざまな検討を行っている。計画を策定後、宿泊施設の建設の有無や運営方法などもはつきりしてくると思われる。競技施設は、基本的に町の既存施設を補修しながら活用し、また、近隣町村の施設利用も含めて事業を進めることになると思うが、新たに必要となる場合は検討しなければならない。

②各種大会の誘致は、すでに取り組んでいる町村もあるが、競合というよりは相乗効果を期待している。本町の特色をいかした事業展開を望んでいる。

③同協会の理事長に総合計画審議会会長が選出される



農業研修会館は宿泊施設として利用されているが、老朽化で改修の検討も必要となる

れたことについては、何も問題はないと考えている。

④農業振興公社跡は、道から無償譲渡を受けたときの条件で、あくまでも農業関連施設として活用することとなっている。また、農業研修会館については、老朽化しているため、今後、改修して合宿施設として利用できるようにしていきたい。

大幅人事異動の是非

原 紀夫議員

本年4月1日付けで、80

名を超える大幅な職員の名を越える大幅な職員の人事異動が行われたが、この人事異動の目的は何かを伺う。

人事は町長の専権事項だが、課長・課長補佐・係長など全員を異動させた課もあり、異動で組織が機能しなくなり、停滞や行政効率低下がと、そのしわ寄せは町民に向かうことになる。町長や行政への不信感につながるが、それらの心配はないのか。異動で職員に気持ちよく働いてもらうのも町長の務めと考える。

私が庁舎内職員と話をしたり、議会事務局と頻りに疎通を図ることについてどのように考えるか。

高薄町長
異動の際には、士気高揚と職場の活性化を目的に、基本方針を定めており、今年度は昇格等を除くと約60名が異動している。職員はどの部署に異動しても努力し、職務に専念しなければならぬので、特に問題はないと思っております。

いる。慣れるまで多少時間はかかるが、町民に不便をかけるようなことがないよう努めたい。

なお、今年度から、事務点検を実施して課題を精査し、機構改革に向けての検討を進めていきたいと考えている。

議員が職員とまじづくりについて話をされることは大いに結構なことである。議会事務局については、議会で判断していただきたい。

森林組合の不適切会計処理への対応

原 紀夫議員

昨年発覚した町森林組合の損失隠し問題は、本年度総会で税務署から申告漏れを指摘され、追徴課税3000万円超を納付したことにより、不適切な会計処理を追認したこととして、現役員辞任まで発展し、町民間の話題となっている。

町と森林組合は町有林管理面で大きく関与しており、多額の出資金を交付している組合でもある。

このような不祥事を受けて、町は森林組合に対してどのような対応をしたのか。

また、出資金が戻らなくなることもあり得るのではないかと出資している理由は何かを伺う。

高薄町長
このたびの問題を受けて、森林組合に対して大変遺憾である旨を伝えていた。町では同組合に事業委託をしているので、事業が確実に行われているかどうかを含めて対応していきたい。

現在、同組合からの要請により、出資金5%の配当を受けて、2%分を増資している。毎年、同組合の事業実績をみると相応に収益があり、5%の配当も続いているので、現状では、出資金が戻らなくなるといふ心配はないと思っております。